

はじめに

2015年1月、阪神・淡路大震災から20年を迎えました。また、2014年10月には新潟県中越地震から10年が経ちました。被災地では未曾有の大災害に遭いながら、それぞれの災害に関する資料を後世へ伝え、検証するために活発な収集、保存、整理、活用が行われてきました。

東日本大震災の発生から4年が過ぎ、東日本大震災に関する資料の収集活動に携わる被災地の大学・県立図書館と阪神・淡路大震災に関する資料の保存機関を結ぶ「被災地図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」も今回で4回目となりました。

今回は、継続的な活動に繋げるため、例年行っている情報交換の前に阪神・淡路大震災および東日本大震災に新潟県中越地震も加え、それぞれの災害の震災資料の収集などの活用の経験から見えてくる知識や課題などを参加機関と共有しました。

また、新たな試みとして、情報交換会の関連イベント「東日本大震災に関する資料整理ワークショップ」を開催しました。東日本大震災後、新潟県長岡市では市内に23か所の避難所を設け、福島県などから避難者を受け入れました。その際避難所に張り出されていたチラシなどの資料が保存され、ボランティアの市民等によって整理されています。ワークショップの講師に長岡市立中央図書館文書資料室の田中洋史氏をお招きし、参加者は実際に避難所から収集された資料のレプリカを用いた資料整理を体験しました。

本報告書は、情報交換会の報告、意見交換、配布資料および資料整理ワークショップの配布資料から構成されています。

今後も本学が培ってきた災害資料学研究の知見の共有などを通じて、東日本大震災の被災地において震災資料関連事業を行う関連機関等と充実したネットワークを築いていきたいと考えております。

2015年3月

神戸大学大学院人文学研究科

奥村 弘